

消費動向調査

「(山形・秋田)県内家計の消費動向調査」(概要)

- 1 調査の目的 山形・秋田の県民の暮らし向きについての現状と見通しを時系列的にとらえるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。
- 2 調査の方法 専属モニターを対象とした郵送によるアンケート調査
- 3 調査の対象者 山形・秋田の県内に在住するサラリーマン(勤労者)世帯(世帯人数2名以上)
- 4 調査期間 平成30年6月1日(金)～14日(木)

山形 モニター世帯数：531世帯
有効回答数：470世帯(回答率：88.5%)
秋田 モニター世帯数：375世帯
有効回答数：329世帯(回答率：87.7%)

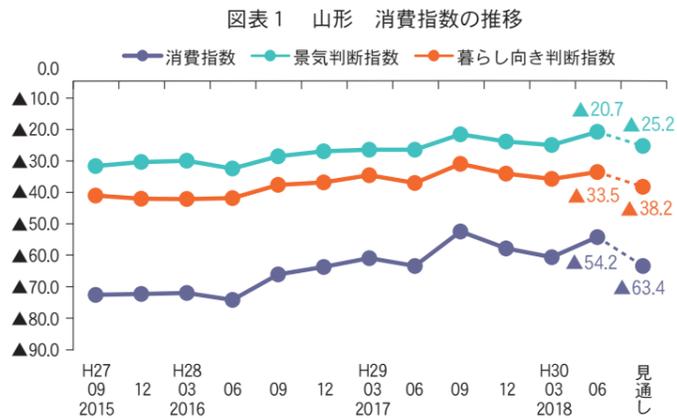
消費指数

第48回 山形県内家計の消費動向調査

～消費マインドは一進一退。3期ぶりに改善したものの、先行きは慎重姿勢～

消費指数は▲54.2(前期比6.4ポイント上昇)と3期ぶりに改善となった。内訳は景気判断指数が▲20.7(前期比4.2ポイント上昇)、暮らし向き判断指数は▲33.5(前期比2.2ポイント上昇)といずれの指数も改善した。

今後の見通しについては、消費指数が▲63.4と悪化の見込みとなっている。内訳は景気判断指数が▲25.2、暮らし向き判断指数が▲38.2といずれも悪化が見込まれており、消費マインドは一進一退となっている。

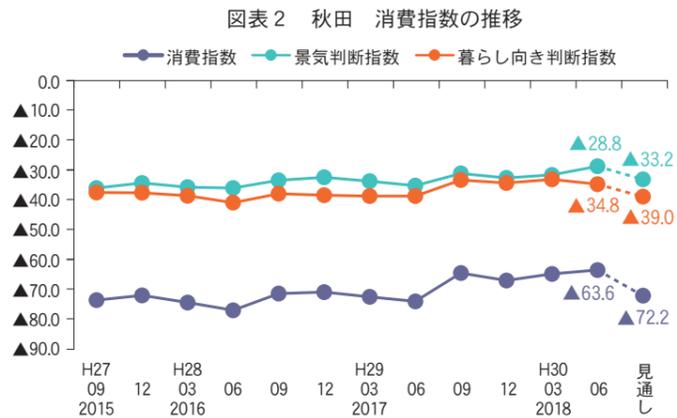


第28回 秋田県内家計の消費動向調査

～消費マインドは2期連続で改善するも、先行きは慎重な見通し～

消費指数は▲63.6(前期比1.3ポイント上昇)と2期連続で改善した。内訳をみると、景気判断指数は▲28.8(前期比2.9ポイント上昇)と2期連続で改善した一方、暮らし向き判断指数は▲34.8(前期比1.6ポイント下落)と2期ぶりの悪化となった。

今後の見通しは、消費指数が▲72.2と悪化が見込まれている。内訳は、景気判断指数が▲33.2、暮らし向き判断指数が▲39.0と、ともに悪化の見込みとなっている。世帯収入の改善が足踏みするなか、物価上昇による負担感は依然強く、先行きについては引き続き慎重な見通しになっている。



【指数の見方】

消費指数は景気判断指数(景気・雇用環境・物価の3項目で構成)と暮らし向き判断指数(世帯収入・保有資産・お金の使い方・暮らしのゆとりの4項目で構成)の合計からなり、値は200～▲200の範囲をとります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します。

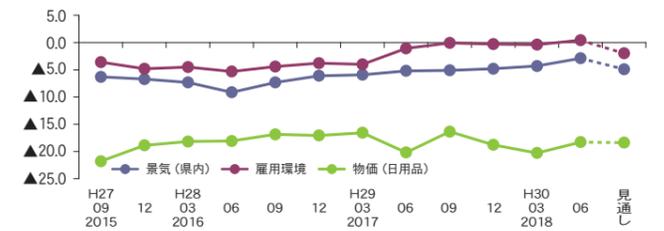
景気と暮らし向き

景気判断

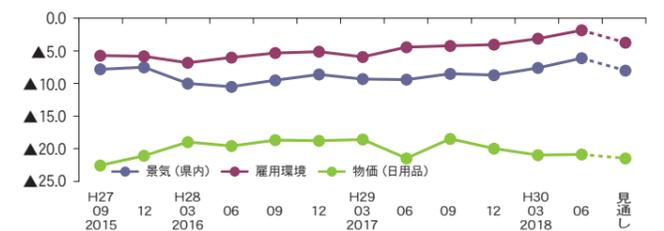
山形の景気判断指数は▲20.7(前期比4.2ポイント上昇)と改善となった。景気判断指数を形成する3つの指数については、「景気(県内)」「雇用環境」「物価(日用品)」のすべての指数で小幅ながら改善となった。

秋田の景気判断指数は▲28.8(前期比2.9ポイント上昇)と2期連続で改善した。指数を形成する個別指数は「雇用環境」が5期連続で改善、「景気(県内)」が2期連続で改善、「物価(日用品)」が3期ぶりに若干改善と、すべての指数で改善となった。

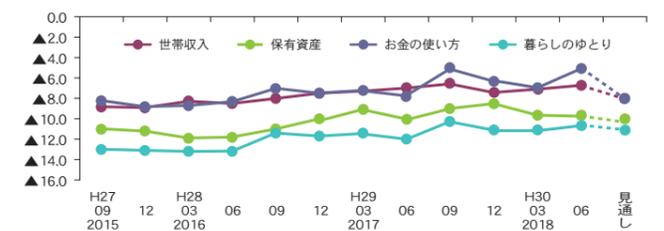
図表3 山形 景気判断指数(内訳)の推移



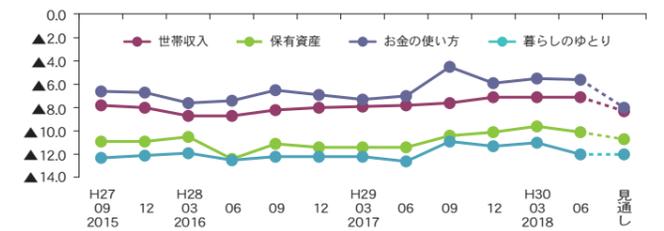
図表4 秋田 景気判断指数(内訳)の推移



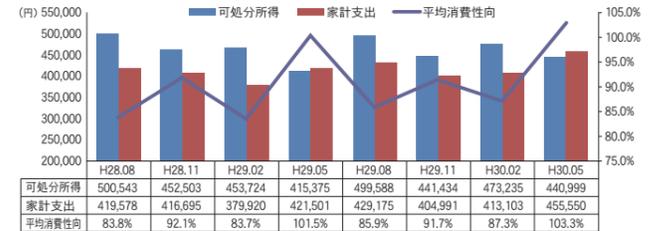
図表5 山形 暮らし向き判断指数(内訳)の推移



図表6 秋田 暮らし向き判断指数(内訳)の推移



図表7 山形 家計収支と平均消費性向の推移



図表8 秋田 家計収支と平均消費性向の推移

